

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	HANAFUKU（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 2日 ～ 令和8年 2月 8日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 2日 ～ 令和8年 3月 8日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	感覚統合の視点を取り入れた運動療育を中心に、一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別性の高い支援を提供しています。こどもが楽しみながら成功体験を積み重ねられる環境づくりができています。	一人ひとりの発達段階や感覚特性を把握するため、丁寧なアセスメントを実施し、感覚統合の視点を取り入れた運動療育を行っています。子供が「できた!」という成功体験を積み重ねるよう、活動内容や難易度を個々に合わせて調整し、楽しみながら取り組める環境づくりを心掛けています。	職員研修や事例検討を継続的に実施し、感覚統合や発達支援に関する専門性の向上を図ります。また、アセスメント結果をより療育プログラムへ反映し、一人ひとりの発達段階や課題に応じた支援内容をさらに充実させます。
2	保護者との情報共有や相談支援を大切にし、連絡帳・送迎時・面談を通して柳雄育内容やこどもの成長を丁寧に伝えています。また、保育書・幼稚園など関係期間と連携し、一貫した支援に繋げています。	連絡帳や送迎時の会話、個別面談を通して保護者と情報共有を行い、ご家庭でも取り組める支援方法を提案しています。また、保育所・幼稚園・相談支援専門員など関係機関と連携し。こどもに一貫した支援が行えるよう努めています。	保護者向けの情報提供や相談の機会を充実させるとともに、保育所・幼稚園等関係機関をさらに強化し、こどもが生活のあらゆる場面で安心して成長できる支援体制の構築を目指します。

3	職員間で情報共有やケース検討を行い、こどもの特性に応じた支援方法を検討・実践しています。安心・安全な環境のなかで、こどもの主体性や自己肯定感を育む支援を継続しています。	連絡帳や送迎時の会話、個別面談を通して保護者と情報共有やケース検討を行い、支援方法の統一や改善に努めています。また、こども一人ひとりの気持ちに寄り添い、主体性を尊重しながら安心して過ごせる環境作りを心掛けています。定期的な研修を通して専門性の向上にも取り組んでいます。	こどもの主体性や自己決定を大切にした支援をさらに充実させるとともに、定期的な自己評価や保護者アンケートを活用し、支援内容や事業所運営の改善に繋がります。また、職員間で支援方法の共有を継続し、より質の高い療育の提供に努めます。
---	--	--	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	感覚統合を取り入れた療育の専門性をさらに高め、一人ひとりに応じた支援内容の充実が必要です。	利用児童の発達特性や支援ニーズが多様化しており、一人ひとりに応じた専門的な支援プログラムの充実が求め垂れているため。	職員研修や事例検討を継続的に実施し、感覚統合や発達支援に関する専門性の向上を図るとともに、アセスメントに基づいた個別支援計画の充実や、支援内容の見直しを定期的に行います。
2	保護者支援等をさらに充実させ、家庭や関係機関との連携をより強化する必要があります。	保護者や関係機関との情報共有は実施しているものの、支援内容や療育のねらいを十分に共有できる機会や方法に差が生じる場合があるため。	保護者との面談や連絡帳、送迎時の情報共有に加え、保育所・幼稚園など関係期間との連携をさらに強化し、支援のねらいやこどもの成長を共有する機会を充実させます。
3	職員間の情報共有や支援方法の標準化を進め、より質の高い療育を安定して提供出来る体制づくりが必要です。	職員の経験年数や専門分野が異なることから、支援方法や知識・技術のさらなる共有と標準化が必要であるため。	定期的なケース会議や職員研修を実施し、支援方法や対応について支援方法や対応二つについて共通理解を深めることで、職員間の支援の質の均一化を図ります。また、自己評価や保護者アンケートの結果を事業運営の改善に継続的に活用します。